

テレビ新広島文化大学講演

農業・環境シリーズ第17話 2009年10月13日

「広島湾のクロダイ研究」

中川平介

国家事業としてのサケ、マスの放流で日本は毎年13億尾の稚魚を放流し大きな効果をあげている。一地方の放流事業で資源が回復した例として広島湾のクロダイが知られている。広島市は昭和50年代後半より資源回復を目的として広島湾へクロダイ稚魚の放流を開始した。資源量が回復したため、平成21年より放流を中止した。資源回復は遊漁者には喜ばしい半面、魚価が低迷しクロダイが有効に利用されていない。放流効果向上のため行ってきた広島市水産振興協会と広島大学との共同研究と、利用拡大に関するプロジェクトを紹介する。

内 容

1. 放流事業とは
2. 水産業の成立条件（漁獲、販売、調理、加工、輸出）
3. クロダイ放流用稚魚の生産方法
4. 放流効果向上に関する研究
 - (1) 放流用稚魚の活力
 - (2) 飼料サプリメント（海藻粉末、EPA・DHA、キチン、ビタミン、中鎖脂肪酸、タンニン
 - (3) 稚魚の至適放流サイズは2 cm か4 cmか？
5. 流通に関する問題
6. クロダイの利用拡大に関する活動